



LIFE IN AMERICA



NO. 2, SEPTEMBER, 2017

龍野北高校の皆さん、こんにちは。新学期が始まって1か月程ですが、いかがお過ごしですか。

こちらでも授業が始まりました。日本語のクラスは1年生から4年生まであり、1年生は今ひらがなを一生懸命勉強しています。2年生～3年生は漢字や文法を少しずつ習っては、ペアワークやグループワークを通して、間違いを繰り返しながらも果敢に頑張っています。

地区によって少し違いますが、アメリカ（レイクワシントン地区）では1～5年生が小学校、6～8年生が中学校、9～12年生が高校に行くことになっています。9年生はフレッシュマン、10年生はソフマ、11年生はジュニア、12年生はシニアと呼ばれています。私が行っているレドモンド高校には約1900人というたくさんの生徒が在籍しています。

公立の高校には制服がなく、白人、黒人、ヒスパニック系、アジア系と沢山の人種の生徒たちが、それぞれの服装で登校してくるので、とてもバラエティに富んでいます。授業に遅刻してはいけない、危険物を持ってきてはいけないなどの基本的な校則はもちろんありますが、化粧や装飾品などに関するルールは特にありません。校則がないなんて羨ましいな、と思うかもしれませんが、成績に関してはとてもシビアで、宿題を提出しなかったり、テストで60点以上を取らなければ単位をもらえず、落第になります。たくさんの選択肢がある代わりに、かなりの自己責任が伴うということです。

日本には忍耐・調和・おもてなしなど、たくさんの素晴らしい国民性がありますが、アメリカはやはり個性や創造力を重視する傾向にあるという印象を受けています。どちらがいいということはないと

思いますが、どちらも身に付けることができれば最高ですね。日本語の授業では、日本の精神の象徴として、

ラジオ体操をしたり、名刺交換の授業をしたりしました。お辞儀をしたり、丁寧に受け取ることがこちらの生徒にとっては新



鮮だったようです。

日本とアメリカの高校には違いもたくさんありますが、共通点もあります。意外な共通点は“鞆の重さ”です。龍野北高校の皆さんの鞆の重さにはいつも驚いていましたが、こちらの生徒もリュックサックはいつもパンパンで重いです。中身は皆さんと同じ教科書やバインダー、筆記用具ですが、教室を毎時間移動する分だけ多いのかもしれませんがね。

さて、来月はハロウィンがあります。そのレポートも入れたいので次回は11月初旬になると思いますが、またアップしますのでよかったですら読んでください。

